

*あらかじめホームページにある本日の『週報』を印刷下さるか、ご覧になったまま礼拝を献げましょう。
*二人以上で礼拝をされる場合は、どなたか一人が司会者になり太字でない言葉を読み、それ以外の方は下記の太字の言葉をお読み下さい。ひとりで礼拝を為される時は、すべてを通してお読み下さい。説教は、ホームページにある本日の説教録音をお聴き下さい。献金は取り分けておいてくださると幸いです。

2021年 1月17日 主日礼拝

(司式：土門嘉樹長老 奏楽：羽倉信彦長老)

《神のみ前に近づく》

前 奏
序 詞 (ヴォータム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。

アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。

アーメン。

讃美歌 113-1節 (いかに幸いな人)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、感染予防のために本日より、それぞれの場所で礼拝を献げる歩みを始めます。

どうか、この状況を憐れんで下さい。どのような形であっても、あなたを崇(あが)め、讃美する心に偽りはありません。どうか、私たちの思いと祈りを受け入れてください。この教会に関わるすべての人を守り、導いてください。そして、私たちとこの世界の罪を赦し、この危機から救い出してくださいますように。

「わたしは絶えず主に相対(あいたい)しています。

主は右にいまし

わたしは揺らぐことはありません。」(詩編 16:8)

*しばらく黙祷の時をもちます

主よ、私たちの心と体を生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン

讃美歌 32-1節 (キリエ)

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きましょう。

*司式者がローマ書5章6~9節を朗読します。

アーメン。

《神のみ言葉の宣教》

聖書
イザヤ書 66章 22~24節 (旧p1171)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ヨハネの黙示録 14章 6~13節 (新p468)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 407-1節 (この世のすべては)

説教

『黙示録④—真の安らぎを得るために』
祝福の祈り 武田真治牧師

《神への応答》

讃美歌 522-1節 (キリストには)

献金

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 =ともに祈りましょう

報告

讃美歌 91-1節 (神の恵みゆたかに)

祝祷 武田真治牧師

後奏

報告と退場

礼拝：茨木公子長老

＜先週の説教から＞

『黙示録④—新しい歌を歌う者たち』

歴代誌下 20:13~22 ヨハネの黙示録 14:1~13

黙示録の12~13章には、サタンの化身である竜と二匹の獣が次々と登場します。この三者は結託して世の人々を支配し、自分たちに従わそうと暗躍します。その結果「すべての者にその右手か額に刻印を押させ」ることになると。この刻印こそ、サタンに服従する印でした。このままだと全世界が悪魔の支配下に陥るのではないかと思ってしまう。

しかし、安心しなさい、そうではないと神様が私たちに励まして下さるのがこの14章だと言い得ます。まず何より最後の時にイエス様がこの地上に再び立たれる時が来ると！それが「見よ、小羊がシオンの山に立って」おられるです。しかもそのイエス様をお迎えする者たちとして「小羊と共に十四万四千人の者たち」がそこに用意されていると。

この十四万四千人の者たちについては、既に7章で記されていました。彼らは前もって、その「額に(神の)刻印を押された」者たちでした。故に、サタンの刻印には何の影響も受けないで、イエス様の再臨を地上で迎えるために選ばれた存在でした。

ただ、大事なことは、彼らが「初穂として、人々の中から贖われた者たち」である点です。「初穂」とは初めの収穫という意味であり、彼らだけで終わるのではなく、この後に続く者たちが更にたくさん現れることを示しているのです。この数の人間だけしか救われないとは決して聖書は言っていません。しかも、この選ばれ者たちが先の竜や二匹の獣たちと戦わなければならないとも書かれていません。彼らはひたすら主を賛美する＝「新しい歌をうたう」務めに生きるのです。サタンと戦ってくださるのはイエス様であり、イエス様が再びこの地上に来られたことにより神様の裁きが始まるのです。